

# 第六次総合計画 施策評価シート(令和元年度)

2-③

**施策**  
スポーツ・レクリエーション活動を推進する

**担当部局**  
文化産業局, 保健福祉局



**【快適】** めざまちの姿 だれもがどこに住んでいてもいつでも気軽にスポーツを楽しむことができる

**市の基本方針**

- スポーツを「する」ことだけでなく、「みる」ことや「支える」ことを通して、市民一人一人が、それぞれの目的や年齢、体力、技術の違いにかかわらず、思い思いに気軽に自分にあったスポーツやレクリエーションに主体的に親しむための環境を充実します。
- 老朽化が進んだスポーツ施設については、計画的な修繕、改修に取り組み、施設機能の維持・向上を図り、より安全な施設づくりに努めるとともに、身近なスポーツ施設である学校体育施設の有効活用や多目的運動場、公園、子ども広場など、今ある施設や資源の有効利用を推進します。
- 市民が身近に興味をもち、スポーツに親しむことができるよう、どんな人たちが、どんな情報を求めているのか、本市のスポーツ情報を一元的に集約して整理し、提供するための体制整備など、情報提供サービスの充実を図ります。
- スポーツ医・科学を取り入れたトレーニングなど、選手や指導者を総合的にサポートする体制を充実します。
- 多様化する市民のスポーツニーズにこたえるため、地域における市民の自主的・自発的なスポーツ活動を支援する体制づくりを進め、その支援に取り組みます。

**数値目標**

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法																																				
週1回以上スポーツをしている人の割合	↑	市民アンケート調査で「週1回以上スポーツ(※)をしていますか。」という設問に対して、『している』と回答した人の割合。 (※)ウォーキングや体操等、健康・体力づくりのための運動を含みます。 ※H25より、設問中のスポーツに関する注釈を追加。																																				
<table border="1"> <caption>週1回以上スポーツをしている人の割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>29.3</td><td>29.3</td></tr> <tr><td>H23</td><td>24.9</td><td>24.9</td></tr> <tr><td>H24</td><td>23.7</td><td>23.7</td></tr> <tr><td>H25</td><td>43.6</td><td>23.7</td></tr> <tr><td>H26</td><td>41.3</td><td>39.0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>42.8</td><td>39.0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>41.6</td><td>39.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>43.5</td><td>39.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>41.0</td><td>41.0</td></tr> <tr><td>R1</td><td>41.0</td><td>41.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td>49.0</td><td>49.0</td></tr> </tbody> </table>			年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H21	29.3	29.3	H23	24.9	24.9	H24	23.7	23.7	H25	43.6	23.7	H26	41.3	39.0	H27	42.8	39.0	H28	41.6	39.0	H29	43.5	39.0	H30	41.0	41.0	R1	41.0	41.0	R2	49.0	49.0
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																																				
H21	29.3	29.3																																				
H23	24.9	24.9																																				
H24	23.7	23.7																																				
H25	43.6	23.7																																				
H26	41.3	39.0																																				
H27	42.8	39.0																																				
H28	41.6	39.0																																				
H29	43.5	39.0																																				
H30	41.0	41.0																																				
R1	41.0	41.0																																				
R2	49.0	49.0																																				
<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、11.7ポイント上がり、前年度に比べ、2.5ポイント下がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P21】</p> <p>(Ⅱ) 年代別では16～19歳(26.7%)から50歳代(25.9%)が低く、50歳代が最も低い結果となった。一方、最も高いのは70歳以上(51.9%)となった。</p> <p>(Ⅲ) 平成30年度目標値を下回り、平成29年度より割合も減少しているが、豪雨災害の対応のため長期間にわたり公営体育施設を閉鎖したことも原因であると考えられる。また、20歳代から50歳代で実績値が低いのは、仕事や育児等でスポーツを楽しむ余裕がないことが原因と思われる。</p>																																						

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法																																				
気軽にスポーツを楽しむ施設が身近にあると思っている人の割合	↑	市民アンケート調査で「気軽にスポーツ(※)を楽しむ施設が身近にありますか。」という設問に対して、『ある』と回答した人の割合。 (※)ウォーキングや体操等、健康・体力づくりのための運動を含みます。 ※H25より、設問中のスポーツに関する注釈を追加。																																				
<table border="1"> <caption>気軽にスポーツを楽しむ施設が身近にあると思っている人の割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>39.0</td><td>39.0</td></tr> <tr><td>H23</td><td>40.0</td><td>40.0</td></tr> <tr><td>H24</td><td>37.2</td><td>37.2</td></tr> <tr><td>H25</td><td>53.3</td><td>37.2</td></tr> <tr><td>H26</td><td>48.3</td><td>48.0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>52.1</td><td>48.0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>51.2</td><td>48.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>51.0</td><td>48.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>47.9</td><td>47.9</td></tr> <tr><td>R1</td><td>47.9</td><td>47.9</td></tr> <tr><td>R2</td><td>58.0</td><td>58.0</td></tr> </tbody> </table>			年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H21	39.0	39.0	H23	40.0	40.0	H24	37.2	37.2	H25	53.3	37.2	H26	48.3	48.0	H27	52.1	48.0	H28	51.2	48.0	H29	51.0	48.0	H30	47.9	47.9	R1	47.9	47.9	R2	58.0	58.0
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																																				
H21	39.0	39.0																																				
H23	40.0	40.0																																				
H24	37.2	37.2																																				
H25	53.3	37.2																																				
H26	48.3	48.0																																				
H27	52.1	48.0																																				
H28	51.2	48.0																																				
H29	51.0	48.0																																				
H30	47.9	47.9																																				
R1	47.9	47.9																																				
R2	58.0	58.0																																				
<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、8.9ポイント上がり、前年度に比べ、3.1ポイント下がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P23】</p> <p>(Ⅱ) 地区別では、倉敷(50.9%)、水島(57.2%)が50%以上となっている。一方、児島(43.6%)、玉島(41.0%)、庄(44.0%)、茶屋町(28.6%)、船穂(10.0%)、真備(34.4%)では、50%未満となっている。</p> <p>(Ⅲ) 平成30年度目標値を下回っており、平成29年度から割合も下回っている。平成21年度当時の状況と比較し、スポーツ施設の整備・改修が進み、市内スポーツ環境は改善されていると思われるが、市民ニーズを反映し、より充実を図りたい。</p>																																						

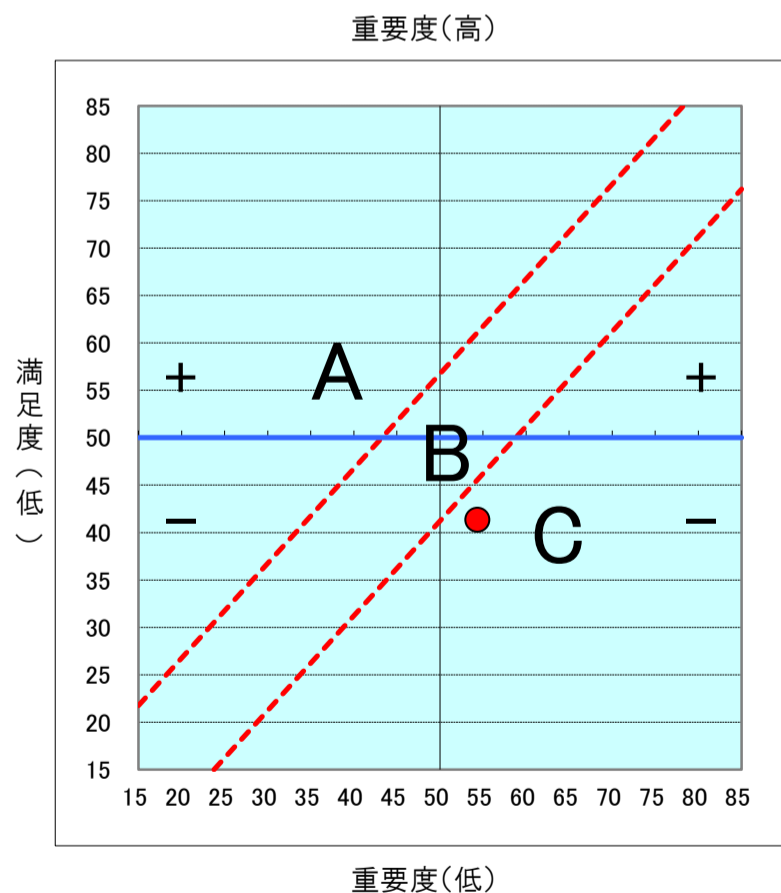
まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
国民体育大会に出場する選手数(人/年度)	↑	市で集計(年度終了時)
		<b>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</b> (Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、4人増え、前年度に比べ、26人減った。 (Ⅱ) 平成29年度に比べ、成年の部が25人減り、59人であった。少年の部も1人減り、76人であった。 (Ⅲ) 平成26年度以降、出場選手は増加し続けていたが、平成30年度で大きく減少した。サッカーや、ハンドボール(成年の部)などの団体競技が、本大会に出場できなかったことが大きく影響していると思われる。

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度決算額(千円)
	スポーツイベント実施事業	(Ⅰ)「市民が主体的にスポーツに親しむための環境づくり」、「競技力強化」、「選手と地域の交流」を目的に実施した。 (Ⅱ) 第11回倉敷国際少年野球大会(参加者16チーム358人)、第11回全日本ユース(U15)水球競技選手権大会(参加者32チーム521人)を開催した。また、第13回倉敷市民スポーツフェスティバルを開催した(参加者数11,153人)。スポーツフェスティバルについては、例年実施していたメインイベント「総合型イベント&スポレク倉敷」が平成30年7月豪雨の影響により中止となったため、昨年度に比べ参加者数の合計が大幅減となった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	17,726
公創	1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭実施事業	(Ⅰ) 1000万人にも及ぶ人々に一斉にラジオ体操を行ってもらうという趣旨で、1962年から毎年1回開催されている、ラジオ体操関係で国内最大のイベントである「1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭」を実施した。 (Ⅱ) 岡山県内では初めての開催であり、約5,000人が参加。 (Ⅲ) 平成27年の夏期巡回ラジオ体操を契機に倉敷市内で広がりを見せているラジオ体操の更なる普及のため、継続してラジオ体操関係イベントを誘致する。	2,119
公創	くらしき健康応援事業	(Ⅰ) 市民の健康意識の向上を目指して、様々な事業を実施し、幅広い世代に向け健康行動の実践のきっかけづくりを行うことを目的に実施した。 (Ⅱ) 健康づくりを広く学べる「くらしき健康応援団講座」(61回、1,587人)、健康イベントや講座の情報をわかりやすくまとめた「くらしき健康ガイド」の発行(年2回)、骨密度や血流などの測定体験を充実(延べ15,786人)、健康行動や健(検)診などへの参加によりポイント付与される「くらしき健康ポイント事業」(WEB・アプリ参加者2,160人)の4つの事業を実施した。 (Ⅲ) 企業等とも連携し、今まで啓発が難しかった若い世代、働き盛り世代へ健康づくりへの働きかけを強化していく。	17,168
公創	高梁川流域中高年健康スポーツ推進事業	(Ⅰ) 運動を通じた健康づくりを積極的に推進する地域のリーダーを育成し、市民の運動を行うきっかけをつくり、市民が運動や身体について正しい知識や理論を持ちながら日常生活にスポーツを取り入れていくことを目的として実施した。 (Ⅱ) 流域内の大学と連携し、市内3地区で中高年健康・スポーツ教室「出前講座」を開催し、37人(倉敷市35人、浅口市2人)が参加した。また「大学講座」(全8回)を開催し、高梁川流域圏内住民22人(倉敷市20人、笠岡市2人)が参加した。大学講座の日程の中で、平成27年度から29年度までの参加者を対象にしたフォロー教室を開催し、教室受講後の支援を行った。 (Ⅲ) 対象者や教室内容等を見直しつつ、継続して実施する。	1,951
	プロ野球誘致・支援事業	(Ⅰ) 倉敷マスカットスタジアムで開催されるプロ野球公式戦及びキャンプ等を支援することで、継続的な開催を推進し、市民に元気や希望を与えとともに、本市のスポーツ振興及び情報発信を図る。 (Ⅱ) 11月9日から17日まで楽天秋季キャンプが開催され、3月8、9、10日にオープン戦が開催された。 (Ⅲ) 楽天秋季キャンプの誘致活動を継続し、本市において秋季キャンプが継続実施されることを目指す。	1,181
創	倉敷国際トライアスロン大会実施事業	(Ⅰ) 日本初の国立公園に指定された瀬戸内海の風光明媚(び)な多島美を背景に、地域の個性と魅力(特性)を生かし、トライアスロンを通して倉敷市を全国に発信するとともに、市民・団体・企業・行政が連携し、一体感を高め、地域の活性化を図るために実施した。 (Ⅱ) 9月9日に第8回大会を予定していたが、平成30年7月豪雨の影響でコースが被災し大会を中止。選手部門では個人の部に560人、リレーの部に43組、ボランティアとして約3,000人が参加を予定していた。 (Ⅲ) 「する」「みる」「支える」を一体化し、地域に密着したスポーツ施策の推進を図るため継続して実施する。	7,852
創	瀬戸内倉敷ツーデーマーチ実施事業	(Ⅰ) 自然に親しみながら、体力づくり、健康づくり、心と心のふれあいを図ることを目的にウォーキングイベントを実施した。 (Ⅱ) 第32回大会として開催し、2日間で延べ8,707人が参加。 (Ⅲ) 歴史のある大会であり、これまでの良い部分を継承しながら、新たな魅力を創出し、参加者の増加を目指す。	8,025
公都	運動公園再生整備推進事業	(Ⅰ) 平成26年度に策定した「倉敷市運動公園利活用基本構想」に基づく、運動公園のリニューアルを行う。 (Ⅱ) 平成30年度は、全事業に先行して土木・建築・工作物の解体工事を実施した。 (Ⅲ) 令和元年度は、テニスコート拡張工事及び東側駐車場整備工事を実施する。	523,839

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度 決算額 (千円)
	スポーツ情報発信事業	(Ⅰ) 一元的に集約したスポーツ情報を提供することで、市民がスポーツをより身近に感じ、興味を持ち親しみやすい環境をつくることを目的に実施した。 (Ⅱ) 平成25年10月1日より、「倉敷市スポーツ情報サイト“Kurashiki Sports Navi”」を開設、運用している。平成30年4月1日より、サイトをリニューアルしたほか、学校体育施設開放事業の説明会等でサイトのPRをするなど、利用率向上に向け働きかけた。 (Ⅲ) 今後も登録団体と閲覧数の増加に努め、本市のスポーツ情報の発信を継続して実施する。	360
	スポーツ選手強化事業	(Ⅰ) 国体正式競技を中心にジュニア選手の資質・能力を最大限に引き出し、育成することを目的に実施した。 (Ⅱ) 倉敷市体育協会専門部等が行う有望なジュニア選手を集めた強化大会や合宿、遠征等、更なる競技力向上と底辺の拡大を図る「スポーツ選手強化事業」に補助金を交付した。またスポーツ医・科学の見地からジュニア指定選手の支援を行う「トータルスポーツ支援事業」、スポーツを愛好する一般市民をスポーツ医・科学的側面から支援する「スポーツ相談室事業」に対して補助金を交付した。 (Ⅲ) 支援内容等の見直しをしながら、継続して実施する。	7,781
公 都 創	グラウンドゴルフ場整備事業	(Ⅰ) 市長公約に基づき公認のグラウンドゴルフ場を4面整備する。 (Ⅱ) 平成30年度中に駐車場舗装等を除く工事は完了し、天然芝養生期間に入った。 (Ⅲ) 令和元年度10月より供用開始とする見通しである。	173,868
公 都	体育施設整備事業	(Ⅰ) スポーツ施設の整備、改善を行い、施設の効率的運営を図る。 (Ⅱ) 平成30年度は、中山公園野球場のスコアボードLED化、倉敷武道館の耐震診断等を行った。 (Ⅲ) 令和元年度は、倉敷武道館の耐震補強実施設計を行う。	136,228
公 創	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 ニュージーランド ホストタウン事業・事前キャンプ実施事業	(Ⅰ) 東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、更なるスポーツ振興・国際理解を図るため、ホストタウン登録をしているニュージーランドや、普及・推進に取り組んでいる水球競技を中心に、代表チームの事前キャンプを誘致するとともに交流の促進を図る。 (Ⅱ) ニュージーランドウエイトリフティング代表チーム及び水球女子日本代表の事前キャンプを受け入れた。事前キャンプ期間中には、市内小学校での児童との交流、練習の一般公開を行うとともに、小中学生を対象とした水球教室を行った。またオリパラ事務局及びNZホストタウンズと連携し、オークランドで開催されたJAPAN DAY2019に出展し、合同でホストタウン事業のPR等を行った。 (Ⅲ) 東京2020オリンピック・パラリンピックの1年前となる令和元年度は、一層充実した事前キャンプを目指すとともに、NZ大使館、NZホストタウンズ等関係機関と連携して更なる機運醸成に努める。	9,112
公 創	国際おもてなし講座実施事業	(Ⅰ) 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたおもてなし英語力の向上のため、市内で、英語講座を実施した。 (Ⅱ) 市民向け10回シリーズ講座を全4回開催。各回の最終回には美観地区になど現地に出向き、より実践的な英語講座を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	537

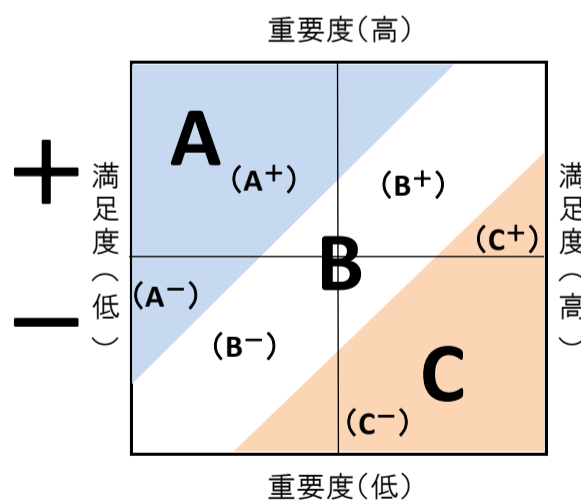
市民の重要度・満足度(R1.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
C <sup>-</sup>	41.33	54.38

●重要度に見合う以上の満足度が得られている(C)  
●重要度が平均値より低い(-)

【グラフの見方】



A: 重要度に見合った満足度が得られていない領域  
 B: 重要度に見合った満足度が得られている領域  
 C: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域

※ 以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)  
 +: 重要度が平均値より高い部分  
 -: 重要度が平均値より低い部分

A<sup>+</sup>, A<sup>-</sup>, B<sup>+</sup>, B<sup>-</sup>, C<sup>+</sup>, C<sup>-</sup>

A<sup>+</sup>: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

## 課題

- スポーツを通じた健康増進を図るために、市民一人一人が、自分に合ったスポーツや健康体操等に、生涯にわたって、自主的・自発的に取り組むための環境整備が必要である。
- 市民が、スポーツを身近に感じ、興味を持ってスポーツに親しむことができるよう、スポーツ情報を集約し、分析、提供するための体制整備が必要である。
- 老朽化したスポーツ施設の計画的な修繕、改修が必要である。
- 本市の競技力を恒常的に維持・向上させるために、ジュニア期からの一貫した選手強化が必要である。
- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、機運醸成が必要である。

## 今後の取組み方針

- 地域における多様なスポーツ活動への参加機会を拡大するため、スポーツ教室や出前講座等の充実を図る。
- 中高年を対象に運動体験を通じた健康づくりの推進を担う地域リーダーの育成を目指し、大学と連携して健康づくり教室を開催する。
- 温もりあふれる健康長寿のまちを目指し、スポーツを通じた健康増進への取組を進めるための施設整備を行う。
- 本市のスポーツ情報を一元的に集約し、提供するサービスの充実を図る。
- 計画的なスポーツ施設の修繕・改修を実施し、機能の維持向上を図る。
- 身近なスポーツ施設である学校運動場への照明設備の設置を進める。
- 有望なジュニア選手を対象とした強化事業を行い、競技力の向上を図る。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、大使館、他のホストタウン自治体等関係機関・団体と連携して機運醸成を図る。